

- ・懇談会に所属しているグループのみを対象とする。したがって、特定ビームライン、原研、理研ビームラインはこの報告書の範疇に入らないものとする。

(3) 体裁

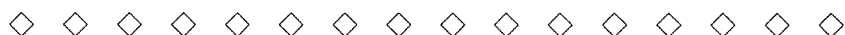
- ・言語は英文とする。
- ・フォーマットについては、ESRFのブルーブックなどを参考にする。
図面、活字の大きさに注意して、読みやすいように心がける。
- ・報告書は英文のみとし、前回(次世代研究会時代)に作った日本語の要旨はなしとする。
(必要とあれば、共同チームでまとめる。)

(4) 提出期限

- ・原研、理研にそれぞれの分担分についての報告書を3月25日までに提出する必要があることから、各SGが作成する報告書は2月20日までに高輝度光科学研究センターに提出する。なお、財団は共同チームが必要とする部数(100部)を印刷・製本し、共同チームに提出するが、別途、財団が独自で配布する分(懇談会が配布する分を含む)については共同チームの了解を得て行う。

(5) その他

- ・この形式はこれからしばらく続ける。



放射光関連会員の国内分布

庶務幹事 坂井信彦

現在わが国には放射光関連のおおきな研究者団体が3つある。日本放射光学会、PF懇談会そしてSPring-8利用者懇談会(以下SPUSと略記)である。発足して2年目のSPUSの会員が全国にどのように分布して、それが他の団体の会員分布とどのような違いがあるかは興味深いところである。幸い他の2団体事務局のこころよい協力を得て[P.30 表1]の会員県別分布表ができた。

この表から放射光に関連する研究者の国内分布がいろいろ読み取れる。会員数にはかなり大きな地域差がある。各地の主要大学が存在する地域や放射光施設が存在する地域に会員数が集中している。SPUSの会員分布には特徴が見られ、ことに兵庫県(SPring-8所在地)と埼玉県(理研所在地)にPF懇談会より多くの会員がいる。PFに近い宮城県にSPUS会員が多いのは何を意味するのだろうか。PF懇談会に比較して関西・中国地方の会員数が増加している。PF懇談会では茨城県(PF所在地)にピークがある。細かに数値をながめるとこれ以外の現実が読み取れる。

SPring-8の完成時には現在とは異なった会員分布となる可能性がある。その頃改めて比較一覧を行ってみたいものである。

表 1

都道府県	SP8利用者懇談会	日本放射光学会	P F 懇談会
北海道	11人	13人	12人
青森	1	1	2
秋田	-	-	-
岩手	-	1	-
山形	1	3	6
宮城	42	35	26
新潟	5	3	3
福島	-	-	-
栃木	3	3	14
茨城	86	175	206
群馬	6	7	4
埼玉	49	46	20
東京	135	150	144
千葉	16	12	16
神奈川	68	82	80
山梨	2	4	2
静岡	5	4	4
富山	3	1	6
石川	5	4	6
長野	2	1	2
岐阜	2	3	2
愛知	43	39	37
三重	-	-	2
福井	4	4	1
滋賀	8	9	6
奈良	1	1	2
京都	56	38	22
大阪	130	78	45
和歌山	1	2	1
兵庫	81	77	39
鳥取	7	1	1
岡山	26	15	9
島根	3	1	2
広島	18	14	17
山口	4	8	6
香川	-	-	-
徳島	6	6	5
愛媛	1	3	1
高知	1	-	-
福岡	19	29	8
佐賀	1	3	1
長崎	-	2	1
大分	2	3	1
熊本	2	3	-
宮崎	2	5	-
鹿児島	1	2	-
沖縄	-	2	1
海外	1	-	4
総会員数	860人	893人	761人